

## 第29回 我孫子市放射能対策会議 会議概要

【場 所】 市長応接室

【日 時】 平成24年10月29日（月）15:20～16:00

【出席者】 市長、副市長、教育長、水道局長、総務部長、企画財政部長、市民生活部長、健康福祉部長、子ども部長、環境経済部長、環境経済部参与、都市部長、建設部長、教育委員会総務部長、消防長、健康づくり支援課長、子ども支援課長、保育課長、商工観光課長、手賀沼課長、農政課長、道路課長、下水道課長（代理）、公園緑地課長、水道局工務課長、教育委員会総務課長、学校教育課長（代理）、放射能対策室長

（報告事項）

（1）放射線量測定結果及び放射能に関する対応について

（各課）

- ・ なし

（2）手賀沼の放射性物質モニタリング調査結果について

（手賀沼課）

- ・ 環境省が8月、9月に手賀沼及び流入河川のモニタリング調査を行った。
- ・ 手賀沼及び流入河川の水質については、全地点で放射性ヨウ素及び放射性セシウムは検出されなかった。
- ・ 流入河川の底質については、大堀川の北柏橋と大津川の上沼橋で、環境省の前回調査から大幅に下がっているが、原因は分からない。
- ・ 手賀沼の底質については、大堀川と大津川の河口に近い根戸下の結果を注視しているが、大幅な変動はない。
- ・ 流入河川の周辺環境については、大堀川の北柏橋で前回調査に比べて放射性物質濃度が上がっているが、空間線量は徐々に下がってきている。
- ・ 手賀沼の周辺環境については、根戸下で放射性物質濃度に大幅な変動は無いが、空間線量は下がってきている。

（3）道路側溝の除染について

（道路課）

- ・ 道路課独自で側溝の測定を行った結果、市の西側の放射線量が高いため、市の西側地区の除染を優先して行いたい。
- ・ 根戸小、並木小、四小、一小、二小・三小を中心とした五つのエリアに分けて設計をしている。
- ・ 五つのエリアについて市内の土木関係業者全てに見積もり依頼書を送付し、早急な対応が可能で一番安価な業者と契約し、市の西側地区の線量が高いところから優先的に

除染を進めたい。

(4) ホールボディカウンタによる内部被ばく測定結果に対する専門医の評価について  
(健康づくり支援課)

- ・ 10月22日に、独立行政法人国立がん研究センターの藤井医学博士と東京慈恵会医科大学の内山医学博士に、ホールボディカウンタの内部被ばく線量結果について評価をいただいた。
- ・ 評価については、「放射性物質が、検出された方のセシウム134及び137、そして預託実効線量の数値について、放射線医学の立場からは、健康に特別な影響を及ぼす数値ではない」とのことであった。11月16日号の放射能対策ニュースで公表したい。

(5) 戸建住宅の除染について  
(放射能対策室)

- ・ 民有地除染の第一次募集分の測定が終了した。除染対象は350件。雨水マスや雨どいで基準値を超えているケースがほとんどだが、平均で基準値を超えているケースも40件ほどある。11月中旬から除染を行うため、入札等審査会に付議をした。
- ・ 除染対象の件数が多いため、一社の契約ではなく、複数の業者で組織している業界団体への委託を考えている。
- ・ 10月1日～10月22日まで第二次募集として、小学生以下の子どもがいる住宅を対象に募集を行い、367件の応募があった。11月の中旬までには測定を終え、11月下旬の入札等審査会に付議したい。
- ・ 今年度は、高校生以下の子どもがいる住宅の除染を完了したい。

(その他)

(商工観光課)

- ・ 独立行政法人国民生活センターが、放射性物質検査機器貸与先自治体を対象として、ゲルマニウム半導体式検出器による精密測定を行う制度を始めた。
- ・ 検査対象は原則として自家消費作物で、学校教育課や農政課の検査品は対象にならない。また、試料は測定の結果、基準値を超えるおそれのあるものに限られる。
- ・ センターでは1日10件程度の検査品を測定できる態勢を組んでいる。

(学校教育課)

- ・ 10月15日、湖北小で栽培されているキウイフルーツから13.2ベクレルの放射性セシウムが検出されたため、廃棄処分とした。
- ・ 10月23日、茨城県産のレンコンから8.2ベクレルの放射性セシウムが検出されたため、学校給食には使用しないこととした。
- ・ 平成24年度の我孫子市産の米について、ゲルマニウム半導体式検出器での検査をつくば分析センターで行なった結果、放射性物質は検出されなかったため、給食に使用している。